美養拾藻抄

四

特別
へ4
8054
4

四之卷

子樹竹蘆多獸虫蠏蛇之部

草　一　麥　四
樹　五　麻　八
竹　九　蘆葦　十
蛇　十一　多　十二
水多　十四　獸　十五
鳥　十六　虫　十七
魚貝　十八　蟲　十九

N4
8054
4
U57208

無常　廿四
神祇　廿六
奥書　三十
釋教　廿五
證寺作例　廿七

哥の部

○[illegible]の[illegible]の穂蓼
○山橋の色よ出て
○鶏冠井の花の色よ出て
○山吹のあかへる蛙の
○[illegible]
○水信子
○うぐひす

詞の部

○[illegible]
○[illegible]
○[illegible]
○[illegible]
○[illegible]
○[illegible]

○石竹（ナデシコ）

○つぐらなよぬく

○つきそめぐ

○彩のそぐる

○浜菜

○うけら（スキをうら）

○やまとむら

○あぶらなる

○さゆり花

○山ぢさ

秋花の後さき
ほそようこぶとなる

○えりなる

野原さしとおのうちわり

○赤とわ赤

○浜ほくら

白木 白あり花の咲し
又紫なる花ひらり
隣の花をひらん

○うちみら 五つ葉つぐど

○ふくらもり

和名 萱草（ヒルカヤ）
右二品を摘葉下

○ふくらもり

和名 萱草（ヒルカヤ）
の苗ことなり

○あぶらなる

和名 芸苔（ナバナ）
宇治殿 於保井

○あるちな

蔓菁

○あちなりのい芋の花

○ちのきのあつあの

○ふくそあつら

和名 鼠麹草（ハハコグサ）
阿波草 久曽加
左良良

○五葉（ハツタバキ）

たちくさきそのとつつのなり
あるいは々の初めの名のみ
ちてきき
とようこそ化とはまちなりのなり

○ちきの花

山ちさの花

○さゆり花

○蕎麦なるもの花

○寺井のうのかさかの花

奥州にてかさ
のかたちの名
なるべし
ものこかさこ
なりのてかか
なりなり
寺井は祥
なるべし他名
なるべし

○布施の花

布施の花こ
五の花きこを

○あなるこ赤なりの五枚

○而也（モヤ）くさ

和名 [illegible]
花の名のよの名なり

○うあら

○ちふちり

遠志（ジ）
和名 [illegible]
[illegible]

○紫仏（アヤメ井）花の花

荊（バラ）

○ウさこ萩　よ月の萩こ　○こうあの　石花こ

○はちぐり　和名抄ニ栗利ハ久佐波ノ字ヲ用ル学者ノ説ニ
ハ波ハ利ノ誤ナリトイヘリ

○夏草を刈ちらしあひくこと　うハ紙中なり

○夏草のたこうのなりて

○山さとなかつく

○山田のちく　赤圓ニて白ヒ茶菌ニ似テ
ちいさき芋ニて赤ク黒ク
ハ俗ノ黒くなるといハ
茶のるる花ニ似タリ

○秋ニ成ハ初ル稗の穂分りん　ちいさき穂ニて秋ニ成ハ
中を分て穂ニなり

○さきこそ　或ハ福草ト云　和名蓼

○茅花

○三俣ニの入ニの蒐を刈るこて

○こくさ　赤茎の草ニ
茎ニ毛ノ多キ草

○水蓼ほ擂て

○赤ほも花　蓼花ノ条中ニ赤ホウムヲ加ヒトノミヨテセヨクルカのコレモウ加
ツル花トヨムコレハ定ニ居定ニハイヘリ

○ちの草の花　赤の花

○ちの草の花　蓼ニ
蓼の茎ハ赤大人
ハ花ハ白キ花

長

馬酔木

茎ハ小ク枝ハ多ク白キ花
ナリ枝ハ高人ニ至ル深山樫と
ハ草根山中ニ多シ一大樹又
ハ大ニなることハ稀なり

菱之部

○三階菱　極伊

○大君の浪をうつ有馬菱　極吾

○奥山の岩木菱の根を深も

○菱の実取子　菱の実 菱の実のをうつ 山家といふ[illegible]

○ありりの寺の小菱　地名の事 委し

四

木樹之部

○白ぢぐち

○柳　ぬるうるとぶ

○ちりう柳のとそうも味う四よのうるうこうる

○卯の花方　卯の花方

○卯の花月釈　卯の花さかり　花のかたちうるはしく

○毛桃　ちいぐく

○あをや柳　一ノ巻ちう十之巻　ちうて云ふる

○卯の花　卯の花もちうて　ちうちう

○梅の花　ちうちう柳を　ちうの

○青柳　の糸の泊さを

○唐棣花　赤ちうこと　ちうちうこと

○毛桃

○槻

桃ノ実ニ

今云けやきこ

○桃の木

○つまりのまい　初ものこと

○つのくぬき

くの木のこと

○い槻

○かきらや紀

○青柳のそりてそよぐれい

○君こるぶ

○ゆばる柳

○青柳の枝切ものしー

○おはため

○柏のうくうくうそば

○児の手柏

○橋いとこそのもの

○ゆぬく棟をなるの柳こくい

○橋の実

○あかるい橋

○青柳の泡き屑ねを

○ちりて花

○清水

○手毬の柳

○卯の花をちらしもの

○つぶとうこん

○あかる橋

○あらかい

○山吹いちりて

○青柳いろく

六

○奥山の榿（ミキミ）が花の　榿の花

○柱木のこゑ　樹名なり

○梅の花　梅の花

○初桜のゆ枝々に　桜の枝

○法花堂の木い　香木なり

○かくの木の実　橘の実なり

○卯の花を月なりとよめるは集中に多くなり

○柳社きれいさえなり

○山吹ながるゝ　日本紀

○山の井　集中に多し

○名木　名所名産名物名木名草名鳥名獣名魚名虫名木の梅とよめるなり

○このもしば　竹樹柴なり

○月山卯の毛月枝　卯の花月枝

○岩ゝ枝　枝ゝ又岩枝岩ゝ

○あふちの花　集中に多くよめり

雲之部

○高雄山雲　なかの月ゝ山峰のうすはたゝ

○雲の形樹のもゝ雨せとうあり高ちゝに

竹之部

○さゝ竹　立竹也　○ゆぎて

○小竹（サヽ）の葉よ　無もれの義　○竹の葉

○ささ初竹　幕竹ヲ　○ささそで　ミゝ葉ニ成そでい小竹ニ
ちいすぐとゝいふ事ヲ

小竹ニ

草之部

草の一種なり

沖つ草

沖に生ずる草也

陸地の生ずるを云ふ

なりそと云ふ一種あり

さてなりそとは

元禄紀二新

なるこ

田地に有り

菅

菅の沖つなはのり

菅の葉

菅の葉

沖つ草

なりそのね

沖つ草の花

沖つ草の花

なるこ

なるこのうれを

なるこ

十

蛇の部

蛇（ミツチ）とりこん　蛇ハ物ニ属ス

鳥之部

○けるのちるよりてなきをふるとりめり

○鶺の地より出山へ入り　○鶺（モズ）　一名鶯

○夜（ヨ）のうちて

○朝鳥（あさどり）　あくちの鳥て明の鳥をいそきたり

○ねえ鳥のうちなけり　鶏

あさまたきあらん

○いるしめ（鶺）　けたてを極るようけて焼るこたるようもあり

○かぐ鳥紅鳥　鶺鴒（かぐ）

○山鳥のたろのたをを　秀つ尾たり

○さゝ羽　鶺鴒の羽之

○鳥飛山ちかそどり　あそい大鳥之

○青ようひかり　因鶴さいるちく

○千鳥つゝ
○ちつゝ
○時雨
○鶴付
○とぶ立
○時雨立ぐと
○時雨付とぶせるは
○雪しるれい時雨
○時雨降なてなきを
○時雨降て
○鴨羽
○川千鳥

○田鶴つまよぶ
○うゝゝゝ鳴行く雁
○山鳥どよもす
○雲雀
○こゑ
○さぬ
○こうれしるれ
○うゝゝゝ
○山雀
○文なに
○さぬ

水鳥之歌

○味の[illegible]　すだく[illegible]

○あきさく　[illegible]

○かりがね　[illegible]

○鴨[illegible]

○たかべさふろう　[illegible]

○[illegible]

獸之部

○おさぎ　鬼子

○麻（シ）

○亮とふ神　獣の形ちにて祀ふ神とふ

○亦佑君を大なる吹こそ　○麻ちく

○言山の岩の高く

○小男麻の毒とのこと

○牡麻（カ）　さてこの麻の毒にて麻のうるなる所にてうりかる居間くかまくろ

あら熊のすむとふ山

病ノ部

○麦喰病　是ハ小麦喰ヒタリ　○あけの病

○あかの病　○馬いくぢなし

○えびとよる麦ぐるい病　えびいと馬　実ハ新も　○馬のふるあるに　平あるのあるにふとく　きくもきき言とふ　ぎこ

○流の病　よき病なるふ　○流の病のあをとて

○赤うなれば病て　○赤病はまだ

○うまの病つくに　○馬のあるこ

○馬ちらあて　おわるう　○馬の目のとぐる　とぐい　雲霧なり

○馬ちやうとあ　馬ちやうとあ　とめいとあうの

○あゝ爲あがく　是を掩くなり。○わゝ爲のあゝ爲ゝば

出之部

○憶婢の名ゝ家のつゝたるよりてゝ

○憶つまゝとぶ

魚貝之部

○鰹　○鯛

○ひうを　○鮫

○住の江の松原の蛸　○そそ貝

○志ぶとぐこと　海の中に志ぶとぐこと　貝の名なり　○茅の貝

○苦蟹　海の中にあるなり　○法螺

○ひうを　若鮎

○貝をひろふと　拾ふ

十六

○夏痩（ヤセ）のようとふりのてをおもひとりめを　鏡をとりてとなり

○おもひきることとなと用ひたりとろ〳〵

恋之部

（集中には男女無差別に恋とふ字を書いたりされど兄弟の恋ふことなども右開と云ふなり）

○妹とをりていと　かとをりてとなり　女となり

○妹とつんきや　おもこんきやとふなり

○妹と　○妹とつと

○妹とつんきや　○妹とつ心い穀とも

○妹と同色ねてなるふ風ふきとなる　妹とあふてのなること

○妹の目をたつ　妹とをたつ　○妹とつとい　妹とをとこ

○いめとみ　夜と紅葉と見ると　妹と古郷を思ふなり

○とかとひもとなて　○鼻ひる　ねる恋ひるくさが

○毎もいとはたり　○ふ屋ひるもうなる　雑の言葉なてなる

○あはれ君はとなりしかに
○とり書　○とり放
○とりもてやあまよ
○年の恋　年中の恋とも
○あはれ君のらと
○若草の物語を思ひ出て　○あこ物と言せまろ
○あこそぐ恋
○つきとるようとなりは　○つれてあり中　○これやこ

○あはれ君をなかくと待いてそんれい
○あはれ君をたわつやりて　○つれそのと引とわ
○あはれよすふ　世の恋を言ふ　○あはれちかろ　恋ふ
○行ちちはそ紀　四国行きなり　○かのころ　○かぶり君　○恋の思さへとなりすて
○あはれ君のことそもとる君　○立そもるて君をそもん
○むひさてあく　○神さかつて
○そ云　○法かこかれる

○[illegible]

○おなじ恋　ちく[illegible]

○うるかつる　かの心をなり

○けしきん　あらしとふる[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○こうり書　[illegible]

○心ないチ[illegible]

○隠のこころふれい　[illegible]

○こうりけ　[illegible]

○恋[illegible]　[illegible]

○恋のやたこ　[illegible]

○[illegible]

○心ようはチ[illegible]

○恋[illegible]

○こうれる[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○恋ろん

○こゝろくとそ思ふ　君のきこゝろを信ぜ
ねの思ひてくひなれば
ゐるを大偽をと罵く

○あいなふよ　をこのいひ
欲く言ひつゝ

○あのてこゝろを　捨て来らんを

○あう牛蛙の

○あひらめとそ　あなせらめ
ゐるとらこと

○あひう口うれん　おひうれこ

○さたるとて　いひ宣むるんの
みんの実うあるるいふ

○さけうむね　おあうひのるこ

○うんうこゝかと　まるうたゝかと
とたうたゝ

○飽の貝のけるひすて

○をてこゝひ

○あらねるまねこ　まねこふ教
の考よをふ

○さるつらふ　面の考ーきこ

○君のめを思ふ　君思ふ人を
ちゆの考

○君思ふて　君なるもの
ちゆの考

○君をはなれて

○君をいまをて　往ちさをこ

○きりもていあう立欲くつきて考うまを

○君にうり立名いたでよ立面山

○考にんてかきて　さゞるちふようさゞ
さ

○からくに　おかるひのとろの
うくたふ

○かひて泡を解けば

○君を口ひれて君こうきまよさぬ

○去らひあひ　男女抱合て離るゝこ

○おりひ　西ひのあるこ

○若草づかる　若草をふ

○人のもとのもとて摩なん

○ひとりつれなく　ひとりをやるなりふ

○人の書を名をらつつぶのつ　書くこと書くこと名の立書なりふ

○ひとりあるかん　君とあらねい常とあらばいかんこと

○ものひ　物思ひ

○あををふ赤もねいふ見てらしけて

○百よチのふふと　○白雲なりを思る　雲をふ

○ものもをもこん　こんなること

○きつなのよるまい　あるひのること

無名之部

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○[illegible]　[illegible]

○山[illegible]　[illegible]

釋教之部

○罪出世（イデ）

出産や俗の文のるるなり

○生死の二つの海

○寺の女餓鬼男がき

神祇之部

○[illegible]

○いちふ　[illegible]

○神[illegible]

○[illegible]

○神[illegible]

○庭中のあたいの神ゝ小葉[illegible]

○はつこうふこもろの　神[illegible]

俳諧 秋の夜の月の光のこ ゆふだすき

本歌にてする様なり 秋の月の光のさやけき

こてぐり 幣をおもてとさしけり

○左 誹諧歌 作例之部

ゆふだすきかけしその日の神まつり 君がためにとあけそめし

人のこゝろゆゑなきことをよみあはせて [illegible]

○そもそもかの神のやどりの宮の垣の けさの人なのみは [illegible]

○なきわれよりもおもひけれは

○集十一上巻旋頭歌之十七首ある

集中の部類題有

○正述心緒之百四十九首 しのびしのびてもせざりして [illegible]

○おほくはちる花にもあらぬ [illegible]

○山科の木幡の山を馬はあれど かちよりわがくる汝を思ひかねて [illegible]

○秋の夜のもとといふ

○西ふかい海つ山川　岩ふる

天の川　去年のつるびつ

○川せをつむよ　あてをつよ　あめ

○とかばけるつ　ふきみ

○笑いたるこねとなるきくよ

○男をさていさるとふ例いあれと

○呼ふとのこあるそらをもをらふ

○神より板よ　板を神より板よ　板をさてきて

上ハくくくと書て書よ
四をくくくう　四王心ハ吾ハ
海つばのつ場のまこ川
ふむとふ言葉きひ海

○神あり

の神　るよハあるくくくくとふ　基ハ信ハ集よ

くくくよう神より板よひくまれの

雄略記二冊後國餘社郡籠川ノ人水江浦嶋カコヲ水江ハ氏

浦嶋ハ名也○仙覺抄ニ風土記ヲ引中ニハ宮川ヲハ筒川ト書ノ

○人名　白王子　天武天皇の皇子　舍人親王と號ス

○末の珠名　上総国国准郡　香ヲ

国ヲ名とあるこの名ハ

ちくるまとちくう

○あづり　ほてんあれ　ほれ

おくはやらくひの

○上ハを尼作りの句を　ハ作ハ

○くくくくハくくくよう

集中第四を考くくあり

ハい

○家持の歌に思川とあるも
そこ山のこゝせり

○萩ハ花を記ス花とそこの花 女郎花
咲くさかりの夜あさ白の花
山上憶良七草ノ歌

○此の歌の下の花をいづく
さかりて咲る也し
信ぞ飾り花といふもの也

○河内女(カウチメ) ○難波女(ナニハメ) ○大和女(ヤマトメ)
何にても入る

○柳をうゑて遊ぶ集中に多し

○天の下まで(汲挽)をうしなひ此の子
五六代集ニ 玉縁をいふ

○雪の色を奪ひて咲る
其の花をいふ

○面(オモ)影に偽なす上に行つ
ウロトイフハ
(汲換集)
年の数つもれとぞ

○左白
書紀の書ニ出る書ハ歌ふ
或ハ左より始ル師の申しけり

○字恋られハ眉の如きを詩集中ニ例あり

○忌(イレ)詞(オフト)

○妹ハ秋なくのとてもある例あり

○古の歌ニ秘密を濁りとなし

○山かのははこその神ひとつけと
そこの鳴こつるのかたる例あり
(昔男の歌)

○なるのとちかてんといふ例あり

○足引の山も名を附るは
ふかきにちかくきなるらん
つきくるかたハ二日の中
に日月の部ニ入るなり

○[illegible]

○濃入[illegible]

○[illegible]

○一首の中に[illegible]

○長谷の[illegible]

○長谷より[illegible]

○長谷[illegible]

○河を渡て[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

元[illegible]元年の[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○ [illegible]

○ 古事記 小竹刈り桃 雉豆雛飯

○ 本曽沿革義 續紀天平勝宝六年[illegible]国信濃国[illegible]
往来頻仍通[illegible]

○ [illegible]

○ [illegible]

○ [illegible]

獻新田部親王哀一首

○ [illegible]

○ [illegible]

憶夫君哀一首

○ [illegible]

○ [illegible]

○ [illegible]

七日の七夕の歌[illegible]

漢書に元尺豊年[illegible]

元正天皇御歌

○たかのうぢのうらにてふねをうるとき
ゆくすゑをこそつぎてまをさん

是いにしへ橘右兵衛の歌なり
ゆくすゑをこそつぎてまをさんとは
君とともにまをさむとなり
仁和帝こゝにおはしまして
ゆくすゑのかたをもつぎてまをさんとよ
みたまへるなるべし

○まつの花のにほひにちるかをとめ
ゆくすゑをこそつぎてまをさん

松の花のにほひとは
ちるかをとめとよめり

○ゆくすゑをあとにあとにとりてたまはるねを
とりてたまはるねをうるとは

酒をとりてあとにあとにとゝ
ふにたまはるなりうるとは
たまはるなり

○山びの花とうゑてつかへたまへ
かりにもあれば人はをしまじ

山びの花とは
櫻花のこと
かりにもあれば人はをしまじ
櫻花のかりにもあれ
人はをしまじとよめるなり

○聖武天皇の御宴 山田史日女嬢
二月なるうめのうつくしきを

聖武天皇の御宴より
櫻花の御宴
二月なるうめのうつくしきを
とよめるなり

○ちはやぶるかみのよもすがらは
梅花のもとなるやめん秋の萩

ちはやぶるかみのよもすがらは
梅花のもとなるやめん
秋の萩
とよめるなり

集中防人の詠書

天平勝宝七歳丁未二月
後紀二年七年の七歳は改元
ありし故なり

○ちはやぶるかみのよもすがらは
すゑをこそいはめ
すゑをこそいはめ
とよめるなり

集中廿卷之歌二短歌トアル説

○陳私懐一首并短歌

○庭の糸桜葉山を　時ときわり

万葉二十巻惣他の家歌朝臣

あらたまの年の始の初春の
きふる雪のいやしけよごと

奥書　年号ハ家号朝臣

○天平元年六月十五日　従三位侍中守兼東宮傅　仏覚

○文永三年十八日　同

○同年四月五日

○嘉元元年九月十五日　藤原の家印

○文永二癸巳中秋月廿五日　従四位侍従兼修理大夫

○寛政十二年四月十日　橘千蔭

四之巻雜々雪數之中